

【研究資料】

Max Frisch年譜（改訂版）

村上 文彦

要 旨

Max Frischが逝去して20余年が過ぎ、生前には明らかにされなかったことや、まだ知らされていなかったこと、さらにFrisch本人の目に触れた場合彼が快からざる思いをすることでであろうことなども次第に明らかにされてきた。さらに今後彼の私信などが明らかにされる可能性もあるが、前回まとめたMax Frisch年譜（総合文化研究第7巻第1号、2001年7月、日本大学商学研究会発行）に新たな情報などを加え、書き改めたのがここに呈示する改訂版である。

1911年

5月15日チューリヒ・ホッティンゲン地区ヘリオス通り31番地にて次男として出生。当時40歳の父Franz Bruno Frisch（1871-1932）は再婚で、独学で建築家となり、第一次世界大戦後は不動産仲介業を営んだ。母のKarolina Bettina（1875-1966）は当時36歳、旧姓はWildermuthで、若い頃ロシアで育児婦をやっていた。父方の祖父はオーストリア出身の皮革職人で、母方の曾祖父はドイツ出身。学業につけなかった父は息子たちにはぜひ大学で学んでほしいという強い望みを持っていた。また父親が初婚でもうけたMaxよりも12歳年長の異母姉Emma Elisabeth（1899-1973、出産の際に母親は死去）とMaxより8歳年長の実兄Franz（1903-1978）の二人の姉兄がいた。父親はつつましい性格ではなく家には借金もあり、Maxは貧しい環境の中で育ち、母は幼いMaxを連れて秋には森の中で落ちている果物を拾ったり、ブナの実を集めてコーヒーの代用にしたりしたことがあった。Maxは父よりもむしろ母の方にとずっと親しみを感じていた。

1924年（13歳）

チューリヒの州立リアルギュムナジウム・レーミビュール校入学。Maxは特に目立った子供ではなく、読書もとりわけ好きというほどでもなかった。このころ最初はサッカーが好きな子供であったが、後年劇場の芝居に夢中になる。当時兄のFranzはすでに大学生で、すべての面で常にMaxのお手本であった。

1927年（16歳）

自作の脚本をベルリンのMax Reinhardtに送る。

1930年（19歳）

高校卒業資格試験合格。チューリヒ大学でドイツ文学を学び、哲学、芸術史、法医学などの講義を聴講。

1931年（20歳）

トゥーンの初年兵学校で2ヶ月間初年兵教育を受けた後の春に、軍人になる意志を問われるが拒否。このころすでに作家になる意志を固めており、第二次世界大戦中も昇級を全く望まなかった。二人の息子達を大学で勉強させたい両親の望みに従い、兄Franzは化学を学び、陸軍少尉になっていた。5月、『Neue Züricher Zeitung』（以下NZZと記す）への投稿記事 *„Mimische Partitur“* がはじめて取り上げられ、自分の名前が付いた記事の掲載に感激する。

チューリヒ大学でドイツ文学の勉学を継続。

1932年（21歳）

3月19日、父親が61歳で逝去。フリーのジャーナリストとして定期的にNZZに記事を執筆し出す。教授の一人が年間800フランの奨学金を手配してくれたが、自立を求め学業中断。

1933年（22歳）

NZZ旅行文芸部門から資金の融資を受け2月16日から10月にかけてプラハ、ブダペスト、ベオグラードなど東欧諸都市や、サラエボ、イスタンブール、ドゥブロブニク、デルフォイ、アテネ、ローマなど地中海沿岸国の諸都市を訪問する最初の外国旅行。通信員としてプラハからアイスホッケー世界選手権のレポートをNZZに執筆。

その後学業に戻り、フェージ教授（Faesi, Robert 1883-1972 チューリヒ大学ドイツ文学教授）のプロ・ゼミナールでベルリンから来たドイツ国籍ユダヤ人女性Käte Rubensohnと知り合う。彼女はユダヤ人であるためにドイツでの学業が困難になり、チューリヒにやってきており、チューリヒに住居を借りていたが、休暇の度にベルリンの両親のもとで過ごしていた。

1934年（23歳）

„Jürg Reinhart. Eine sommerliche Schicksalsfahrt“ を発表。

Käte Rubensohnと親交を深める。学業を断念。

1935年（24歳）

4月にKäte Rubensohnと共に初めてのドイツ旅行。ドイツ旅日記として *„Kleines*

Tagebuch einer deutschen Reise“が4月30日、5月7日、5月20日の3回シリーズでNZZに掲載される。また、ある兵士の日記として9月16日、9月18日、9月22日の3回シリーズで*„Tagebuch eines Soldaten“*をNZZに掲載。12月にもドイツ旅行。

1936年（25歳）

Käte Rubensohnに求婚するが、彼女はそれを愛情よりもユダヤ人に対する彼の心遣いと受け止め拒否する。

子供の頃からの友人が年間4000フランの学業資金援助をしてくれることになり、建築家を志しチューリヒ工科大学（ETH）に再入学して建築学を専攻する。幼い頃から父親の事務所で建築関係の仕事を見聞きしていたMaxにとって自分になるべき職業は、著作やジャーナリズム関係以外には、建築家としての仕事以外考えられなかった。

1937年（26歳）

*„Antwort aus der Stille. Eine Erzählung aus den Bergen“*をドイツから出版。

10月Hermann Hesseに本を添えて手紙を送る。Hesseからの返書については不明。

その後、文筆活動断念を決意し、母親とやり取りした手紙以外、これまで書き溜めていたすべてを焼却する。

1938年（27歳）

チューリヒ市より『Conrad-Ferdinand-Meyer-Preis』受賞。

Käte Rubensohnと別離。彼女はバーゼルで学業を継続することになる。後年、Frischの長女UrsulaがKäteの息子と恋仲になり、Frischは好感を持ったが、結婚には至らなかった。

1939年（28歳）

9月3日第二次世界大戦が勃発し、テッシン州にて軍旗への忠誠を誓う。

第一回目の兵役は10月18日まで、ドイツ軍の侵攻に備え国境警備の任務に就く。テッシン州とエンガディン州で砲兵として服役、その後散発的に1945年までで、兵役は総計650日に及ぶ。

文筆活動を再開し、*„Tagebuch“*を執筆し始める。*„Aus dem Taschenbuch eines Soldaten“*を発表。

1940年（29歳）

春に再び兵役。*„Blätter aus dem Brotsack“*を発表。

8月、兵役休暇期間中に建築学の学士号を得る。

1941年（30歳）

建築事務所に就職。同僚として製図版を並べていた女性建築士Gertrud（愛称:Trudy）

Anna Constanze von Meyenburg（1916-2009）の気品のある物腰に惹かれる。

1942年（31歳）

1月5日、82名の建築家達が参加した設計コンテストで優勝、レッツィグラーベン地区の野外プールの工事を受注する。建築事務所開業。

7月30日、裕福な家庭育ちのGertrudと結婚。お金と結婚したのではないかと疑う友人たちもいたが気にも留めなかった、と後に**„Montauk“**の中で述懐。

1943年（32歳）

6月9日、長女Ursula誕生。建築家としての市民生活と文学活動による芸術家としての生活の両立を目指す。

8月、コンテストの優勝賞金3000フランを得る。500フランを母親に渡す。
„Die Schwierigen oder J'adore ce qui me brûle“ 発表。

1944年（33歳）

脚本家で、後にチューリヒのシャウシュピールハウス劇場の支配人となるKurt Hirschfeld（1902-1964）から舞台作品を執筆するよう路上で勧められる。建築家としての仕事を終えてから執筆を行い、5週間後に第1作目**„Santa Cruz. Eine Romanze“**が完成する。この作品でWelti財団から『Dramenpreis』を受賞。さらに3週間後に第2作目**„Nun singen sie wieder. Ein Schauspiel aus der Gegenwart“**が完成する。11月25日、長男Hans Peter誕生。

1945年（34歳）

„Bin oder Die Reise nach Peking“ 発表。

3月29日、シャウシュピールハウス劇場で自作品**„Nun singen sie wieder. Versuch eines Requiems“**をKurt Horwitz演出で劇場初上演。

1946年（35歳）

3月7日、シャウシュピールハウス劇場で**„Santa Cruz. Eine Romanze“**をHeinz Hilpert演出で初演。さらに10月19日、同劇場で**„Die Chinesische Mauer. Eine Farce“**をLeonard Steckel演出で初演。

野外プールのプロジェクトが縮小認可され、多忙を極める。フランクフルト・アム・マイン（以下フランクフルトと記す）、ミュンヘン、ニュルンベルク、ヴェルツブルク、ジェノヴァ、ミラノなどへ旅行。

1947年（36歳）

„Tagebuch mit Marion“ 発表。ダボス、プラハ、フィレンツェ、シエナなどへ旅行。

8月、野外プール工事着工。

11月、Kurt Hirschfeldの家でBertolt Brecht（1899-1956）と知り合う。また11月25日に、終生の友となるドイツの出版業者Peter Suhrkamp（1901-1959）とフランクフルトで知り合う。

„*Als der Krieg zu Ende war*“ 執筆。„*Santa Cruz. Eine Romanze*“, さらに „*Die Chinesische Mauer. Eine Farce*“ 出版。

Friedrich Dürrenmatt（1903-1990）と知り合う。

1948年（37歳）

この年から翌年にかけてドイツ、フランス、東欧などへしばしば旅行。ポーランドを訪問し、ワルシャワでかつてのゲッターを見学。

„*Notizen aus Berlin und Wien*“ をNZZに掲載。

1949年（38歳）

1月8日、シャウシュピールハウス劇場で „*Als der Krieg zu Ende war. Schauspiel*“ をKurt Horwitz演出で初演、出版。

Peter Suhrkampと親交を深める。翌年Suhrkampが独立して出版社を立ち上げた後は、このSuhrkamp社からFrischのすべての作品が発行されるようになる。

5月17日、次女Charlotte誕生。

6月18日、竣工費用450万フラン、工期2年をかけたチューリヒ市レッツィグラベン地区の野外プールが完成、Frisch自身はこの仕事に4年間かける。

1950年（39歳）

„*Tagebuch 1946-1949*“ 発表、これは新たに創立されたSuhrkamp出版社の最初の出版物の一つとなる。

秋にスペイン旅行。

1951年（40歳）

2月10日、シャウシュピールハウス劇場で „*Graf Öderland. Ein Spiel in zehn Bildern*“ をLeonard Steckel演出でチューリヒ初演、不評を極める。

ロックフェラー財団から脚本部門の奨学金を給付され、4月から翌年にかけて約1年1か月間滞米し、ニューヨークでChristopher Streetにアパートを借りる。シカゴ、サンフランシスコ、ロサンゼルスなどアメリカ諸都市訪問。

9月、妻のGertrudがアメリカに来て、11月に二人でメキシコ旅行。

„*Don Juan oder Die Liebe zur Geometrie*“ 執筆。

1952年（41歳）

5月、アメリカ滞在を終え、帰国。演出家Benno Besson（1922-2006）の姉Madeleine Seigner - Bessonと親密になり、その関係は1958年まで6年間続く。

„*Herr Biedermann und die Brandstifter*“ 執筆。

8月、家族ともどもジュルト島のカンペンにあるPeter Suhrkampの別荘に滞在。

1953年（42歳）

3月26日、バイエルン放送局よりラジオドラマ „*Herr Biedermann und die Brandstifter*“ を初放送。

5月5日、シャウシュピールハウス劇場で „*Don Juan oder Die Liebe zur Geometrie. Komödie in fünf Akten*“ をOskar Wälterlin演出で初演。同日ベルリンのシラー劇場でも同作品をHans Schalla演出で初演。

6月16日、バイエルン放送局よりラジオドラマ „*Rip van Winkle*“ を初放送。

1954年（43歳）

„*Stiller. Roman*“ をSuhrkamp出版社から刊行。

家族と別居し、チューリヒ湖畔のメンネドルフの農家に一人ひっそりと暮らし、執筆活動をする。

„*Begegnungen mit Neger. Eindrücke aus Amerika*“ 発表。

1955年（44歳）

1月、開業12年目にして建築事務所を共同者であるHannes Tröschに売却、作家活動に専念。

ブラウンシュヴァイク市より『Wilhelm-Raabe-Preis』受賞。スイス・シラー財団より『Schiller-Preis』受賞。ヘッセン州放送局より『Schleußner-Schueller-Preis』受賞。

6月14日、バイエルン放送局よりラジオドラマ „*Eine Lanze für die Freiheit*“ を初放送。

10月28日、西ベルリンのクーアフルステンダム劇場で „*Die Chinesische Mauer*“ 第2稿をOscar Fritz Schuh演出で初演。

ベルリンでBrechtと最後の出会い。チューリヒでGünter Grassと最初の出会い。

1956年（45歳）

2月4日、„*Graf Öderland. Ein Spiel in zehn Bildern*“ をFritz Kortner演出でフランクフルトの市立劇場で上演。

キューバとメキシコ訪問。

1957年（46歳）

4月から5月、Madeleine Seignerとギリシャ、アラブ諸国訪問。

秋、„*Homo faber. Ein Bericht*“ 発表。

„*Biedermann und die Brandstifter. Ein Lehrstück ohne Lehre*“ 執筆。

1958年（47歳）

3月29日、シャウシュピールハウス劇場で „*Biedermann und die Brandstifter. Ein Lehrstück ohne Lehre. Mit einem Nachspiel*“, ならびに „*Die große Wut des Philipp Hotz. Sketch*“ をOskar Wälterlin演出で初演。

7月3日、パリでの „*Biedermann und die Brandstifter. Ein Lehrstück ohne Lehre*“ 客演の際に、Ingeborg Bachmann（1926-1973）と会い、交際が始まり、その関わりは4年間続く。

11月、『Georg-Büchner-Preis』受賞。『Literaturpreis der Stadt Zürich』受賞。

1959年（48歳）

2月25日、Gertrud Anna Constanze Frisch von Meyenburgと離婚。その後Gertrudは建築設計の仕事に復帰する。

自動車学校に通い運転免許取得、VW購入。

3月31日、Peter Suhrkampが68歳で逝去。

5月28日、フランクフルトの市立劇場で „*Biedermann und die Brandstifter. Ein Lehrstück ohne Lehre. Mit einem Nachspiel*“ をHarry Buckwitz演出でドイツ初演。
夏、肝炎を患う。秋、シエナからBachmannに求婚するが、結婚には至らず。

1960年（49歳）

ニューヨーク旅行。

ローマのVia Giulia 102番地で、Bachmannと新たに同居。

1961年（50歳）

Bachmannとギリシャ旅行。

11月2, 3, 4日、シャウシュピールハウス劇場で „*Andorra. Stück in zwölf Bildern*“ をKurt Hirschfeld演出で初演。

9月25日、西ベルリンで „*Graf Öderland. Ein Spiel in zehn Bildern*“ 第3稿をHans Lietzau演出で初演。

1962年（51歳）

1月、 „*Andorra*“ をフランクフルトで上演。マールブルク市フィリップス大学より名誉博士号を授与される。デュッセルドルフ市より『Großer Kunstpreis der Stadt Düsseldorf』受賞。

ローマでドイツ文学とロマンス文学専攻の23歳の学生Marianne Oellersと知り合う。

Bachmannとの隷属的な関係に終止符を打ち、同居解消。

9月12日、ハンブルクで „*Don Juan oder Die Liebe zur Geometrie. Komödie in fünf Akten*“ 第2稿をUlrich Erfurth演出で初演。

1963年（52歳）

Marianne OellersがローマのFrischのもとに来る。Via Marguttaに1965年まで滞在。ローマの喫茶店で話したのがBachmannとの最後となる。

アメリカでの „*Biedermann und die Brandstifter*“ と „*Andorra*“ 初演のため、Marianneと訪米。

1964年（53歳）

„*Mein Name sei Gantenbein. Roman*“ 発表。

テッシン州ベルツォーナに古い山荘を購入。

11月8日、Kurt Hirschfeldが62歳で逝去。

1965年（54歳）

2月26日、ハンブルクで „*Die Chinesische Mauer*“ 第3稿を1955年のベルリン上演の時と同じOscar Fritz Schuh演出で初演。

„*Zürich-Transit*“ 執筆。

ローマを最終的に引き払う。

4月、『Literaturpreis der Stadt Jerusalem』受賞のためエルサレム訪問。イスラエルで初めてのドイツ語による公式の講演を行う。

西ドイツのバーデン・ヴュルテンベルク州より『Schiller-Gedächtnispreis』受賞。

5月8日、フライブルクで „*Als der Krieg zu Ende war.Schauspiel*“ 第2稿をClaus Leininger演出で初演。

5月15日、ベルツォーナの山荘に入居。

1966年（55歳）

母のKarolina Bettinaが91歳で逝去。

ソ連、ポーランド旅行。

„*Zürich-Transit. Skizze eines Films*“, „*Erinnerungen an Brecht*“ 発表。

1967年（56歳）

チェコスロバキア旅行。

„*Biografie : Ein Spiel*“ 執筆。

1968年（57歳）

チューリヒ湖に面したキュスナハトのBirkenweg 8番地に住居を購入。

2月1, 2, 3日、シャウシュピールハウス劇場で „*Biografie : Ein Spiel*“ をLeopoldt Lindtberg演出で初演。

„*Öffentlichkeit als Partner*“ 発表。

二度目のソ連旅行。プラハ、ワルシャワ、アヴィニオン、パリ、レニングラード、オ

デッサ、ヴェニス、ロンドン、エルサレム、マンハッタンなどの諸都市を訪問。
Christa Wolfと知り合う。

12月、Marianne Oellersとベルツォーナで結婚。その後数年間ベルツォーナ、ニューヨーク、ベルリンに交互に住む。

1969年（58歳）

日本訪問。

1970年（59歳）

アメリカ旅行、長期滞在を1972年までしばしば繰り返す。

Karl Siegfried Unseld（1924-2002: Peter Suhrkampが逝去した後、1959年からSuhrkamp出版社代表）とMarianneと共に、ワシントンのホワイトハウスにアメリカ大統領補佐官のHenry Alfred Kissingerを訪問。

スイス作家連盟を脱退し、オルテン・グループ（最初の集会の場所となったスイスのゾロトゥルン州の小都市オルテンにちなんで名付けられた）を結成。

„*Wilhelm Tell für die Schule*“ 発表。

1971年（60歳）

2月、ニューヨークで女性の児童心理学者の住まいを借り受け、ほぼ半年間アメリカ滞在。コロンビア大学で講義。

1972年（61歳）

西ベルリンのSarrazin通りに住居を購入。

„*Tagebuch 1966-1971*“ 発表。

11月8日、パリで „*Die Chinesische Mauer*“ 第4稿パリ・バージョンをJean - Pierre Miquel演出で上演。

1973年（62歳）

„*Dienstbüchlein*“ 発表。

夏、ブルターニュに3週間の休暇旅行。

Marianneがアメリカ人作家Donald Barthelme（1931-1989）とただならぬ仲となり別居開始。

10月17日、Ingeborg Bachmannが47歳でローマで逝去。

1974年（63歳）

1月12日、シャウシュピールハウス劇場でスイス・シラー財団より『Großer Schiller - Preis』受賞。

4月、アメリカ人女性出版者Helene Wolff から2か月間の講演旅行に招かれ、単身

で渡米。付添人としてFrischの作品をまだ一冊も読んだことのない31歳の女性Alice Locke-Careyが随行し、その後親密になる。

5月11日、Aliceとロング・アイランド島のモントーク岬で週末を過ごす。

夏、友人Gottfried Honeggerのチューリヒ郊外ゴックハウゼンにあるアトリエで„*Montauk*“執筆。

1975年（64歳）

„*Montauk. Eine Erzählung*“発表。

秋、西ドイツ・シュミット首相に請われドイツ政府代表訪中団の一員として中国訪問に同行。

1976年（65歳）

6巻本の作品全集をSuhrkamp社より発行。

„*Notizen von einer kurzen Reise nach China 28.10.- 4.11. 1975*“を雑誌『Spiegel』に掲載。サブタイトルは、„*Nein, Mao habe ich nicht gesehen*“。

9月、フランクフルトのパウルス教会でドイツ書籍協会より『Friedenpreis』受賞。

1977年（66歳）

11月、ハンブルクでのSPD党大会に招かれ講演する。

1978年（67歳）

„*Triptychon. Drei szenische Bilder*“発表。

1979年（68歳）

„*Der Mensch erscheint im Holozän. Eine Erzählung*“発表。

3月30日、テッシン州でMarianneと離婚。

チューリヒのStocker通り39番地に住む。

10月9日、ローザンヌでフランス語の„*Triptychon. Drei szenische Bilder*“をMichel Soutter演出で上演。

キュスナハトの住居を手放す。

1980年（69歳）

国立ニューヨーク大学バードカレッジより名誉博士号を授与される。

4月、„*Triptychon*“をワルシャワで上演。

5月、その間やはり離婚していたAlice Locke-Careyと再会。1983年までベルツォーナとニューヨークで交互に同居。

1981年（70歳）

2月1日、ウィーンでドイツ語の „*Triptychon*“ をErwin Axer 演出で上演。
4月30日、ニューヨークのプリンス・ストリート123番地にロフトを購入。
5月、70歳の誕生が祝われ、記念論文集 „*Begegnungen*“ が出版される。
チューリヒ工科大学に『Max Frisch文書保管所』が創立される。

1982年（71歳）

„*Blaubart. Eine Erzählung*“ 発表。
ニューヨーク市立大学より名誉博士号を授与される。
9月24、25日、Rororo の伝記叢書Nr.321 „*Max Frisch*“ を執筆したVolker Hageが訪問。

1983年（72歳）

春、Alice Locke-Careyと最終的に別離しアメリカから帰国。
5月、Stadelhofer通り28番地のメゾネット住宅に転居。終の棲家となる。
„*Forderungen des Tages*“ 発表。
かつての知人であったMadeleine Seigner-Besson の娘で、幼いころから識っていた Karin Pilliod Hatzky と親密になり、彼女はFrischの最後のパートナーとなった。

1984年（73歳）

フランスの『Commandeur dans l'ordre des arts des lettres』に叙される。
9月26日、ニューヨークのロフトを売却処分。

1985年（74歳）

シカゴの『Commonwealth-Preis』受賞。

1986年（75歳）

7巻の全集発行。オクラホマ大学より『Neustadt-Literaturpreis』受賞。
6月2日、Max Frisch研究者村上文彦氏の訪問を受ける。

1987年（76歳）

ゴルバチョフ大統領の招待によりKarin Pilliod Hatzkyと共にモスクワ訪問。
ベルリン工科総合大学より名誉博士号を授与される。

1989年（78歳）

夏、„*Schweiz ohne Armee ?*“ 発表, „*Jonas und sein Veteran*“ のタイトルで上演。
初版は数日で完売、その後11月26日、スイスは軍隊を保持すべきか国民投票が実施される。
デュッセルドルフで『Heinrich Heine-Preis』受賞。体調不良。

1990年（79歳）

3月、医者から腸癌が肝臓にまで転移しているという診断を受け、余命の長くないことを告げられる。

„*Schweiz als Heimat ?*“ 発表。

6月、„*Homo faber*“ を映画化したドイツ人映画監督の Volker Schlöndorff の訪問を受けた際、死期が近いことを語る。

最後の数か月は身辺整理に努める。

1991年

4月4日から5日にかけての深夜、チューリヒのStadelhofer通りの自宅にて逝去。Karin Pilliod Hatzkyが臨終に立ち会った。享年79歳11か月。

Frischは自分自身の葬儀を綿密に計画しており、葬儀は厳密に彼の計画に沿って行われた。

同9日、ザンクト・ペーター教会にて葬儀が行われる。葬儀では司祭が同席せず、Karin Pilliod HatzkyがFrischの言葉を読み上げ、故人の希望に従って友人の作曲家 Michel Seigner と作家の Peter Bichsel が弔辞を述べる。

2か月後、僅かな友人たちが Karin Pilliod Hatzky にベルツォーナの山荘に招かれ、お別れの会が催された。もともと Frisch はこの山荘のアトリエの壁に自分の遺骨を埋め込むつもりでいたが、その後計画を変え、散骨されることを望んでいた。そして彼の希望通り友人たちの見守る中、遺骨は炎の中にゆっくりと投げ入れられ、その煙はスイスの空に立ちのぼっていった。

2009年

5月17日、最初の妻 Gertrud Anna Constanze von Meyenburg が93歳で逝去。

6月4日、長女 Ursula Priess（66歳）が父親 Max との関わりを描いた „*Sturz durch alle Spiegel*“ をチューリヒの Ammann 社から出版。

2010年

ETH の『Max Frisch 文書保管所』にある未完の原稿が Peter von Matt 編により „*Entwürfe zu einem dritten Tagebuch*“ というタイトルで Suhrkamp 社から出版される。

[参考文献]

- Veröffentlichungen von Max Frisch. In: Gesammelte Werke in zeitlicher Folge. 12Bde. Edition suhrkamp, Frankfurt am Main. 1976.
- Entwürfe zu einem dritten Tagebuch. Erste Auflage, Suhrkamp Verlag Berlin. 2010.
- Beckermann, Thomas : Bibliographie zu Max Frisch. In: Text und Kritik, Heft 47/48, 2. Auflage. S.92-103. edition text+kritik GmbH, München. 1976.
- Dahms, Erna M.: Zeit und Zeiterlebnis in den Werken Max Frischs. Walter de Gruyter, Berlin. 1976.
- Gerlach, Rainer : Bibliographie. In: Text und Kritik, Heft 47/48, 3.Auflage. S.114-149. edition text+kritik GmbH, München. 1983.
- Hage, Volker : Max Frisch. Rororo 321. Rowohlt Taschenbuch Verlag GmbH, Hamburg. 1983.
- Hage, Volker: Max Frisch. rm 50616. Rowohlt Taschenbuch Verlag GmbH, Hamburg. 1999. rm 50719. 2011.
- Hage, Volker: Max Frisch. Sein Leben in Bildern und Texten. Erste Auflage, Suhrkamp Verlag, Berlin. 2011.
- Karasek, Hellmuth : Max Frisch. Friedrichs Dramatiker des Welttheaters, Band 17. Friedrich Verlag, Velber bei Hannover. 1974.
- Kilcher, Andreas : Max Frisch. Sb 50. Erste Auflage, Suhrkamp Verlag Berlin, 2011.
- Petersen, Jürgen H. : Max Frisch. Sammlung Metzler; M173. Stuttgart. 1978.
- Petersen, Klaus-Dietrich : Max Frisch – Bibliographie. In: Über Max Frisch. edition suhrkamp 404. Frankfurt a. M. 1974. S.305-344.
- Schütt, Julian : Max Frisch. Erste Auflage, Suhrkamp Verlag Berlin. 2011.
- Schmitz, Walter : Bibliographie. In: Über Max Frisch. edition suhrkamp 852. Frankfurt a.M. 1981. S.453-534.
- Weidemann, Volker: Max Frisch. Sein Leben, seine Bücher. 3.Auflage, Verlag Kiepenheuer & Witsch, Köln. 2010.

(Abstract)

Schon ist die Zeit mehr als 20 Jahre nach dem Tod von Max Frisch vergangen. Dazwischen kamen die neuen Tatsachen über ihn langsam hervor, die noch nicht mitgeteilt worden waren. Deshalb musste hier die Zeittafel neu umgeschrieben werden.

